



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行人 末吉卓也
1部60円年間千共1100円

道標

【司教区昇格五十周年】
小教区が活性化し
教区が一つとなるように

糸永司教の後任に

郡山健次郎被選司教

十二月三日(土)ローマ時間正午(日本時間午後八時)、教皇ベネディクト十六世は糸永真一司教の後任として教区司祭郡山健次郎神父(志布志教会)を鹿兒島司教とする旨を公式発表された。司教叙階式は、一月二十九日(日)午後二時から鹿兒島カテドラル・ザビエル教会で行われる。

司教叙階式は1月29日(日)

2時から鹿兒島カテドラルで

郡山被選司教は一九四二(昭和一七)年八月二十日、大島郡竜郷町瀬留で郡山為業・セツ夫妻の次男として生まれる。地元中学校を経て名瀬の県立大島高等学校を卒業後、鹿兒島に出て予備校に通っている間に司祭への召命を覚えて、一九六四年四月、教区神学生として福岡のサン・スルピス大神学院に入学。八年に亘る知的および霊的準備を経た後、一九七二年二月

二十日、名瀬の聖心教会にて糸永司教によって司祭に叙階された。被選司教の司祭召命の芽は、ご本人によればおそろく小さいときからの御両親の言葉にあるという。御両親はすでに故人となられたが、お父上の為業さんは、戦前から宣教師を助けて教会のために尽力し、戦時中の軍部による大島教会迫害下にあつては教会と自らの信仰を守る闘いに苦闘した方である。師が小さい頃、家にお客がある時、いつも師の頭に手を置いて「この子は司教になる」と言つて



郡山健次郎被選司教

「エッ、ボクがですか!」と思わず叫んで、笑つてし

任命を受けて

郡山被選司教

今回のサブライズ人事。誰がびっくりしたかといえ、もちろん、本人でした。司教様から呼ばれて「：ア、ンタだ」と言われたときは「エッ、ボクがですか!」と思わず叫んで、笑つてし

まいったぐらいます。おそろく私のことをよく知つている仲間の司祭たちも同じだったのに違いありません。それは、ちょうど、音楽審査(オーディション)を受けたこともないのに、いきなり観客席から華やかな舞台上に上げられ、たくさんのライトをあびせられて、いるような感じ、いまだに、

戸惑いと一種の恥ずかしさの中にいます。ところで、新しい使命を受けたとはいえ、自分自身の生き方になんらの変更を加えるつもりはありません。ですから、モットーはと聞かれたら、答えはやはり同じです。つまり、「それでも、喜び一杯。希望一杯。神様ありがとう」です。十字架という

不条理の死を強いられたにもかかわらず、「彼らをお救いください」と祈られたこの気高い姿こそ、わたしたちに残された、主の遺言だったというのが私の信仰です。このモットーが、鹿兒島中に響き合い、うねりとなって、一人ひとりが喜びで輝く教区を夢見ています。

いたという。御母堂セツさんも、そのような御主人を支えながら七人の子どもたちを育て上げ、信仰を育まれた。そのご母堂は師に「世の中で一番偉いのは神父、一番目が医者だよ」と語っていたよし。自らの召命体験を語る中で、神学校行きを決意する折りにこの両親の言葉を思い出さざるを得なかった、と述べたことがある。

司祭としての歩みは、職歴(別項)が示すように多彩な活動経験の持ち主である。司祭としての三十二年間に赴任した教会は、助任、主任司祭を含めて八小教区教会に及ぶ。司教区草創期からの田辺・田原師を別に

布志教会ではそのためにも力を注いできた。教区の事情からベトナムからの教区神学生受け入れが決まると、糸永司教の委託を受け、数回現地に飛んで受け入れ神学生の募集と面接、現地の司教方との交渉にあたり、周知のように、四人の神学生を得ることができた。

「神さまが『もういいよ』とおっしゃるまでは希望がある」とはそのおりの口癖であったという。その言葉を、これからは県民と教区民のために生きて下さるに違いなし。「喜びと希望をもって」新司教就任を祝いたい。

郡山健次郎被選司教職歴

1972年3月20日司祭に叙階、72年4月聖心教会助任、74年4月鳴池教会助任、78年4月種子島教会主任、83年4月海外研修(米国で英語、フィリピンのEAPIで司牧研修)、84年4月ザビエル教会助任、86年4月吉野教会主任・同幼稚園長、94年4月玉里教会主任・教区書記長、01年4月志布志教会主任・同幼稚園長、05年12月3日鹿兒島教区司教に任命
※この間、青少年司牧担当、滞日外国人司牧担当、CLC担当、家庭を考えるチーム担当責任者、司祭評議会評議員、M.E.(Marriage Encounter)担当。教区カトリック相談電話(「鹿兒島きぼうの電話」)を立ち上げ、運営委員長としてその充実を図る。

2006年 明けましておめでとうございます 平成18年

司教 糸永真一
被選司教 郡山健次郎
司教総代理 竹山 昭

鹿兒島地区

小限憲士(始良)、牧山田一(指宿)、小川靖忠(加世田)、泉 浩二(鴨池)、永山幸弘、末吉卓也(ザビエル)、J・ムーベルガ、有馬信茂、頭島 光、大松正弘(谷山)、G・サンタマリア(玉里)、橋口啓悟(吉野)、O・ベルナルディーノ(種子島)、国原武志(国分)、松森孝郎(マリア山荘)、竹山 昭(教区本部)、L・レデスマ(純心聖母会鹿兒島修道院)、田迎 徹、成相明人(引退)、浜崎真実(出向)

大隅地区

M・ヴィゴロ(鹿屋)、東 研(大根占)、郡山健次郎(志布志)、田原 章(垂水)

北薩地区

W・フリチエル(出水)、山口重義(阿久根)、M・アッシュヤー(入来)、J・レヒナ(大口)、J・ハンマ(川内)

大島地区

大野和夫(地区長館)、内野洋平(大笠利)、寝占敦之(瀬留)、美島春雄(大熊)、中野裕明(名瀬聖心)、木村敏彦(小宿)、柳本繁春(古仁屋)、瀧 憲志、浜田盛茂(古田町)、岡 俊郎(カトリック長浜研修所)

徳之島地区

福岡英雄、石田 望(母間)、T・メニッヒ(和泊)

司祭評議会

糸永真一(会長)、竹山 昭(副会長)、小川靖忠(事務局長)、寝占敦之、中野裕明、泉 浩二、頭島 光、福岡英雄、内野洋平、M・ヴィゴロ

読むしるしの時

2005年教区10大ニュース+1

- ①「第十二回教区評議会のまとめと勧告」発表(1月27日の司祭大会)
主日ミサ参加率低下、青少年の教会離れ、司祭召命減少に象徴的に現れた教区の危機的状況を克服するための思い切った司教の提言
- ②司教区昇格五十周年開始ミサ(2月27日・カテドラル)
司教区昇格勅書に立ち返って、「司教区」の意味と使命を考える。
- ③聖体一日礼拝小教区リレー開始(2月27日・ザビエル教会)
聖体の年の教区行事として、九月まで、感慨深く全小教区を一周
- ④故教皇ヨハネ・パウロ二世の追悼ミサ(4月6日・カテドラル)
在位二十六年、八十四歳。初めて日本を訪れた教皇
- ⑤新教皇ベネディクト十六世就任祝賀ミサ(4月24日・カテドラル)
「聖なる、普遍的、使徒的、唯一の教会」
- ⑥初のベトナム人教区神学生(5月25日・沖繩での教区司祭黙想会)
ガブリエル・ティエンさん受け入れ。八月十六日、マニラで勉強中の三人が鹿兒島教区神学生に追加登録
- ⑦WYDケルン大会に青年グループ派遣(8月)
司教区五十周年記念企画、十人が参加(福畑神学生も長崎コレジオから)
- ⑧司教区昇格五十周年記念ミサ(9月19日・カテドラル)
司祭・修道者ばかりでなく、特に信徒の役割と功績に光が当てられた。
- ⑨初の終身助祭叙階式(9月19日・カテドラル・記念ミサ中に)
終身助祭制度の先駆け

お分けします！ 教区報縮刷版

鹿兒島カトリック教区報は、一九六二年創刊以来、教区の歴史を記録してきました。教区では、司教区五十周年を記念し、この教区報を資料として活用していただこうと、創刊号から二〇〇四年十二月号までを縮刷版(A4サイズ)にまとめ、入手希望の信徒の皆さんにお分けしています。ご希望の方は教区本部までご連絡ください。
☎〇九九―二二六―五二〇〇

教区の歩みと信仰養成

信仰養成委員会報告

司教区五十周年を迎えた今年、鹿兒島教区では記念のミサを中心さまざまな取り組みが行われた。十一月四日(日)に教区本部で行われた信仰養成委員会では、今年の教区の動きを振り返りながら、今後の信仰養成のあり方について話し合われた。

委員会で糸永司教は、ベトナム神学生の受け入れ、終身助祭制度の導入と助祭の誕生、信徒奉仕者制度の導入の三つを挙げ、「鹿兒島教区の新しい司牧体制が見えてきた。共同体に奉仕するチームでの司牧体制構築が始められている」と教区の動きを解説した。

信徒奉仕者制度の準備として、福岡サン・スルピス大神学院での神学養成講座に、終身助祭制度の導入と助祭の誕生、信徒奉仕者制度の導入の三つを挙げ、「鹿兒島教区の新しい司牧体制が見えてきた。共同体に奉仕するチームでの司牧体制構築が始められている」と教区の動きを解説した。

新たな一歩を踏み出して

鹿兒島教区報の縮刷版を開いて、三十六年前の糸永司教様の鹿兒島司教任命の頃を振り返ってみますと、なんとその発表も、同じ時期、十二月二日だったようです。

三十六年前も今回も、ザビエル様の祝日と新司教誕生の喜びが重なるとは、神様のお恵みを一層感じます。

その頃の郡山被選司教様は福岡の大神学院で十二月十四日に「守門、読師の下級聖品を受けた」とあります。今で言う朗

座に参加した人の感想、教区内における宣教奉仕者養成講座の様子も報告され、活発な意見交換がなされた。各委員からは、信徒たちの前向きな意欲や熱意が見られるという意見や、実際に小教区で信徒が、司祭と助祭と信徒奉仕者でチームを組んで奉仕するには、より一層の司祭の理解が必要だとの意見も出された。

また、各担当や信徒団体の報告が行われ、女性信徒の会(橋本嘉奈子)、連合壮年会(迫一夫)、教師の会(岩崎)、青少年担当(末吉卓也神父)から活動の様子が報告された。召命担当の泉浩二神父からは長崎の小神学校の体験入学の様子が報告され、参加者のうち数人が入学の希望を持っていると嬉しい知らせがあった。

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

純心学園 山頭信子
夕時雨生徒の落書消しがたく
ミサ行きてあかぎれいたむささげの手
(評) 深愛の結句がよい。

鹿兒島 徳永ノブ子
セーラー服遠き思い出針供養
鹿兒島 本城 愛
朝日さす座敷におとす晴着かな
鹿兒島 春山マリ子
お正月 花毯 鈴毯 毛糸毯
名瀬 松畑義弘
点眼の一滴の涙や冬の星
船旅や天心にかがよふ寒昂
(評) 句歴を感じさせる佳作

出水 遠竹睦郎
初物を神に供へて年迎ふ

短歌 (思川短歌会作品)

純心学園 川上 和
ひっそりとキリシタン灯籠境内に立つ
純心学園 田村鏡子
運動会指の先まで楽しけり
鹿兒島 龍門司真人
初日さす聖に笑まむ新司教
主よ主よと呼ぶ初夢や妻の声

名瀬 林 明子
とめどなくあふれるなみたつかれきつた
このからだを主にあずけます
小さい愛情をたきしめる夜は母さんの手
につつまれるように眠りぬ
(評) 口語短歌は特に結句が一首を成す。

出水 遠竹睦郎
初物の大けき早掘り笥を掘り来て神に供へ食しぬ

現代詩 (思川現代詩会作品)

純心学園 川上 和
マラッカよりさつまつ目指されしザビエルの熱き思いに日々倣ひけり
鹿兒島 春山マリ子
現代の女性の気持ちわかるけど神も仏も宿り少なし
鹿兒島 前田儀子
祈るごとよき歌になれと寄る窓に夜更けの雲より満月生るる
古仁屋 豊島忠司
何処からか這入り来れる沢蟹の真つ赤な奴を夜に追ひ出す
阿久根 中津濱フサエ
キリストの誕生祝いつつ振り返る夫との生活六十年を
鹿兒島 田平新太郎
新しく教へたまわる司教故日々の暮らしの父と尊ぶ
修学の孫の旅路は水清し雪の螢の舞おたる河

オルガンコンサート

第二回ザビエル教会主催
期日：3月11日(土) 18時30分～20時
テーマ：「受難―バッハ・オルガン小曲集より―」
演奏：高坂 暢(こうさか のぶ)氏
ドイツ国立フランクフルト音楽大卒業生
会場：ザビエル教会
入場料：全席一、〇〇〇円



カトリック新聞

へえ、日本の教会は今こうなんだ・・・
ザビエル

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com

読奉仕者の選任を受けたということかな？ その頃の郡山神学生も新たな使命に燃えていた頃だったことでしょう。

今年、ザビエル様が生まれてちょうど五百年にあたります。新しい司教様も生まれることですが、私たちが新たな気持ちで歩んでいきたいですね。

ザビエル上陸記念祭実行委員会からこのコラムでは皆さまのザビエル神父様への想いや様々な声をお待ちしています。今後とも協力をお願い致します。当コラムへの寄稿は四百字以内で教区本部・久保まで